

## 県内トップの海開き

6月27日、逗子ヶ浜と片添ヶ浜海水浴場で海開きが行われました。片添の砂浜では、シーズン中の安全を祈る神事後、浮き輪を手に集まった子どもたちが初泳ぎを楽しみました。最初は冷たい海に戸惑っていた子どもも、すぐに水に慣れて元気に水しぶきをあげていました。



## 海上から危険箇所点検



6月8日、梅雨入りを前に土砂災害などの起きそうな場所を海から調査・点検するため、大島商船の協力のもと町消防団や消防、警察、土木事務所の職員らが実習船「すばる」で大島郡を一周しました。これは、町と大島商船の災害時における連携協力の一環で行われたもので、船上から双眼鏡などを片手に調査。沿岸部が崩れ等が数箇所発見されたものの、日常生活に影響を与えるものではないことが確認されました。

## 陸奥慰霊祭

伊保田の陸奥記念公園で陸奥慰霊祭が6月8日行われ、昭和18年に戦艦陸奥の沈没事故で亡くなった1121人の犠牲者の冥福を祈りました。

この度、戦争により沈没した艦船を潜水して撮影し、慰霊を続けている千葉県の写真家田中正文さんが、今年5月に撮影した戦艦陸奥の写真と引き上げた遺品を陸奥顕彰会に寄贈。海中の船の状況を遺族に報告しました。写真と遺品は陸奥記念館に展示されます。



## 看護専門学校で戴帽式

看護師の象徴ともいえるナースキャップを授かる戴帽式が6月15日、大島看護専門学校で行われました。看護師を目指して1年間学んできた2年生40人が、校長からナースキャップを与えられ、ナイチンゲールの像からろうそくに灯をともし壇上に上がりました。

学校関係者や家族が見守る中、そろって誓いのことばを述べ、看護への思いを新たにしました。今後は病院などで実習を受けながら看護師への道を歩みます。

